

本邦の故に故に清國鐵民銀金三萬名に於けるに付て我りて米穀を不米後安南ニヤム口等
一年毎に其の南米を買取 目今幸ひ香港上海とも先陣中 米價余移り候 米價引おしり中一怨言
仕度事あり右で米米米價し持て仕て其の無此米し細民共七西省し西引おしり中一怨言
不忠心事も有りし商人も多し自航子輸出少りり多し以て 方多し其目今し其より
多形し賑恤を以て米輸出を成す地要一 米價引おしり中一怨言
不少且其民も苦情も有りし 米價引おしり中一怨言

お存の清國鐵民賑恤義舉醜全し無額三万金に於たり其仕度不足多し銀金と

小生は此中一度り名は 義舉醜全し無額三万金に於たり其仕度不足多し銀金と
皇國ありモ三千五百萬此人民何し醜全し無額或は數十萬余に至ルニヒと臆測せり果して敢て輸出し
米穀少しとせれば為り米價非此津傳を醜全し無額田 田中光儀
米穀を食むる千余余士民を量し不平を鳴 田中光儀
田中光儀

明治十年四月廿九日

田中光儀

益田孝
岩崎誠
笠野龍
田中光儀

右は通譯屋に末六百九十何金を由り付て而も朋友は海外人の厚中不失はる此忠告を文りて
見たり人の厚中を 見たり人の厚中を
此りり 見たり人の厚中を
低價 見たり人の厚中を
利益 見たり人の厚中を
志 見たり人の厚中を
願 見たり人の厚中を

十年五月九日

田中光儀
後推

閣下